

中小企業家同友会は、全国4万6千人の経営者が加入する経営の学習のための任意団体である。中小企業とそこで働く社員と家族、地域の発展を目指して多様な活動を行っている。

私が岡山県中小企業家同友会に入ったのは約20年前。イ草サンダルや皮革小物の製造からスタートした当社（ダイヤ工業）だが、主力商品を医療用コルセットやサポーターに切り替え、整骨院向けの通信販売を軌道に乗せようと必死の時だった。先代から社長を引き継いだ途端に減収減益となり、「会社をつぶすかもしれない」という不安で、わらにもすがる思いで同友会で経営の勉強を始めた。そこで出会った経営者らのさまざまな経験談や対話から学んだ教訓が、今の私の原点と言っている。

中でも決定的だったのは、福岡の会員から聞いた「経営指針書」なるものの存在だ。経営理念を掲げて会社の目的を内外に示し、方針に基づき計画的に事業を推進す

松尾 正男

岡山県中小企業家同友会代表理事

私と中小企業家同友会

◇筆者紹介（まつお・まさお）大



阪経済大経営学部卒。カシオ計算機勤務の後、1980年ダイヤ工業入社。専務を経て96

年6月から社長。2015年5月から現職。岡山県吉備中央町出身。64歳。

ることで、初めて組織経営が成り立つ。その理念・方針・計画をまとめたものが経営指針書である。

「いかに環境が厳しくとも時代の変化に対応し自社を維持発展させることが経営者の責任。その根底を支えるのは明確な指針と社員との信頼関係である」との語に、「今のわが社に決定的に欠けているのはこれだ」と衝撃を受けた。

自社と社員と地域について連日真剣に語り合う経営者らの姿は、それまで抱いていた中小企業の経営者像を根底から覆すものだった。何もできていなかった私は感動を覚え、ようやく「経営者」としての第一歩を踏み出す勇気を与えられた。

一日一題